

町を想い、愛する、すべての町民とともに 『みんなが幸せを実感できる元氣なまちこおり』の実現



高橋町長に聞く 4期目の展望

PROFIRE 桑折町出身。65歳。福島高卒、立教大経済学部中退。1987（昭和62）年から町議を6期23年務め、2003（平成15）年から2010年まで議長。2010（平成22）年の町長選で初当選。3期目任期満了に伴う「桑折町長選挙」は9月20日告示され、再選を果たした。

地理的優位性活かし 活力とにぎわいを創出

相馬福島道路の全線開通で各方面から注目が集まっているこの機を逃さず、伊達桑折IC周辺への企業誘致を進め、新たな雇用の創出とさらなる税収を確保し、町民所得の向上と再分配を図ります。

また、蚕糸跡地に完成するスーパーやグランピング施設、認定こども園の開業を機に、日常生活の利便性向上やまちなかの賑わい創出、地域活性化を図り、地場産業や商工業の振興につなげます。

29年連続で皇室献上品に選定された本町産の桃は、知名度やブランドイメージが飛躍的に高まっています。基幹産業である農業振興では、町独



誰もが安全・安心に 暮らせる町を創る

激甚化・頻発化するあらゆ

る自然災害から、町民の生命と財産を守るとともに、安全・安心な暮らしを維持するため、災害に負けない強靱な社会基盤を構築していきます。

また、迅速な情報発信や災害対応訓練、非常用品の備蓄など、役場庁舎を拠点とした防災対策を強化するほか、消防団の活動環境を向上させるとともに、町内会や住民自治協議会などの地域コミュニティ活動の支援を通し、自助・共助・公助に基づく地域防災力を強化します。

自然と調和した 豊かな暮らしを創る

良好な住生活環境を維持するため、道路・水路の適正な整備と維持管理に努めるほか、空家の流通や適正管理を促進します。

また、ごみ減量化事業の推進や再生可能エネルギーの普及拡大、半田山や産ヶ沢川など自然環境の保全に努めるほか、「ジェンダー平等」などSDGsの目標を意識した各種事業を推進し、生活の豊かさをより一層高めながら、次世代に引き継いでいきます。

健康長寿で 元氣な町を創る

「こおり健康楽会」の事業を通して、町民の健康意識は高まっています。引き続き、多様な主体と連携し、先進的な健康維持・増進事業に取り組み、健康寿命の延伸につなげます。

高齢福祉については、社会福祉協議会や各事業所などと連携し、介護保険事業の充実を図るほか、地域サロン活動などの支援や芸術・文化に触れる機会の創出、「お出かけバス」事業による移動手段の確保などで、生涯に渡って住み慣れた地域で生きがいを持ち、元気に活躍できる地域社会を作っていきます。

次世代を担う子どもたち を大切に育む

「子育てするなら桑折町」と言われるよう、引き続き、子育て世代に寄り添う支援に努めます。待機児童ゼロの堅持や乳幼児保育・教育の質の向上を図ります。また、育児用品プレゼントや制服支給の継続、給食費全額助成を実現し、

経済的負担の軽減を図ります。

教育については、特別支援教育や不登校対策など、個に応じた支援体制を充実させるほか、平和学習事業やふるさと学習を継続し、郷土への愛着心に溢れる桑折っ子を育みます。また、町独自の土曜学習塾や奨学金制度に加え、ICT教育の充実を図りながら、「桑折町の15歳のめざす姿」を実現します。



豊かな地域資源を活かし 人と人の絆を育む

「献上桃の郷」の商標や町ロゴマークを活用したシティブロモーション事業、移住定住促進事業が功を奏し、桃の最盛期における来

訪者が大幅に増加したほか、人口動態でも社会増減がプラスに転じています。今後は、ICTを効果的に活用しながら、献上桃や西山城、郡役所、半田山などの地域資源の魅力を効果的に発信し、交流・関係人口の増加を図ります。

また、住宅取得助成事業など若い世代向けの住宅施策を充実し、人口流出抑制や移住定住を増加させ、地域社会の持続性を高めます。

「住み続けたいまち 住み たいまちこおり」の実現

本町はいま、人口減少・超少子高齢社会の進行や、度重なる自然災害などの地域課題に加え、新型コロナウイルスを代表とする地球規模の課題への対応も求められています。

時代の潮流を見誤ることなく、常に変革を成し遂げ、先人から受け継いできた恵まれた地域資源をしっかりと守り、活かしながら、将来にわたり「住み続けたいまち 住みたいまち こおり」を創造していくことが使命と捉えており、3期12年の経験と、郷土発展への想いを胸に、引き続き、全身全霊をかけ町政執行にあたります。